



全ての人が安心して 使える駅

大阪府立工芸高等学校

3年

たか むら

み さと

高村 実里

不特定多数の人が利用する駅はどのようにして全ての人が使いやすくなっているのかを京阪淀屋橋駅で調査しました。

改札に入ると点字ブロック、進行方向を示す矢印、注意が床に大きく書かれていました。注意書きには赤色や黄色の目立つ色に大きな文字とピクトグラムや外国語も使い書かれています。日本語では分からない外国人観光客にも親切なつくりで、進行方向を示す矢印は青色とオレンジ色に色付けされており、分かりやすかったです（写真1）。

ホームに降りるにはエレベーター、エスカレーター、階段があります。階段の手すりには点字があり、目が不自由な人でも安心して昇降できるようになっています。目が不自由であれば少しの段差や物でも危険となりうるので点字があり、安全だと感じました。点字の位置もちょうど手すりを握った時に指が触れる内側にあり、利用しやすいと思いました（写真2）。

トイレは分かりやすく柱に大きくピクトグラムが描かれ、文字も4つの言語で書かれていました。男女トイレの間の壁には点字が施された案内板があります。バリアフリートイレには車いす利用可能でオストメイト設備、オムツ替えシート、ベビーチェア、パブリック用折りたたみシートが備わっていました。ベビーベッドよりも大きいベッドがあり、初めて見たそれが何か分かりませんでした。見るとそのベッドにはパブリック用折りたた

みシートと書かれていました。調べるとこの大きなベッドはメーカーや規格によって大型ベッド（国土交通省建築設計標準）、介助用ベッド（JIS規格）、ユニバーサルシート（コンビウィズ・LIXIL）、収納式多目的シート（TOTO）、パブリック用折りたたみシート（TOTO）と呼ばれる介助用ベッドでした。このベッドは比較的大きな施設に設置されることが多く、その他一般的な施設ではベビーベッドが設置されることが多いそうです。そのため体の大きくなったお子さんを連れた方などは「トイレ難民」となってしまいます。しかし淀屋橋駅にはパブリック用折りたたみシートも設けられ安心して利用出来ます。トイレ付近に行くと音声案内がされており、目が不自由な人や離れた場所においてもトイレを見つけることが出来ます（写真3・4）。

調査してみて、バリアフリー設備で知っているものもありましたが、分かりやすい色が使われていたり、パブリック用折りたたみシートやトイレの音声案内など知らないこと、手すりに点字がついてると知っていたけど指が触れやすい内側についてると詳しく知らないこともありました。今私は建築を学んでおり、バリアフリーやユニバーサルデザインについて知っているつもりでした。しかし知らないことも沢山あったので、これからもっと知識を深め、活かしていきたいと思いました。



写真1 改札



写真2 改札とホームをつなぐ階段



写真3 柱のトイレ案内



写真4 バリアフリースイレ